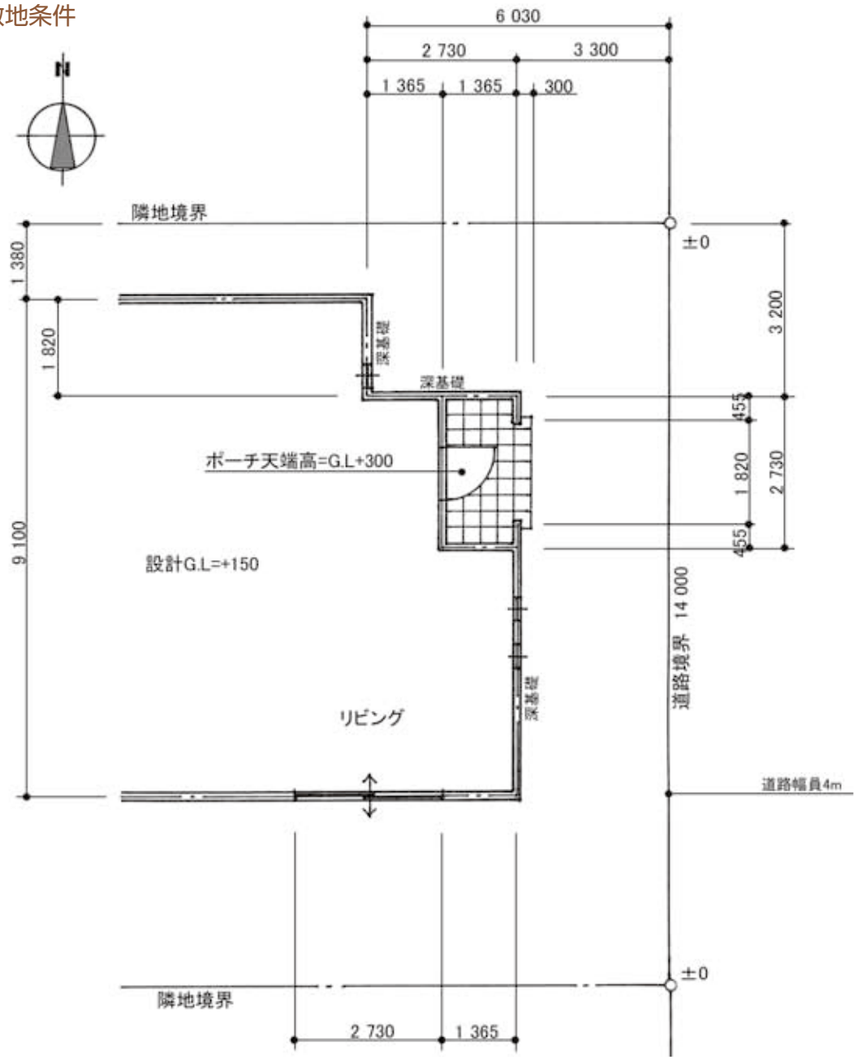
第 2 回目の課題について

それでは今回の新しい課題をご覧いただきましょう。
敷地条件は東入りで、道路と敷地の高低差は 150mm となっています。
下記の敷地条件や施主の要望をふまえて、ゾーニング図・平面図・立面図（可能であればパース図）を作成し、
次回の模範プランと比較できるように準備しておいてください。

1. 敷地条件



2. 施主の要望

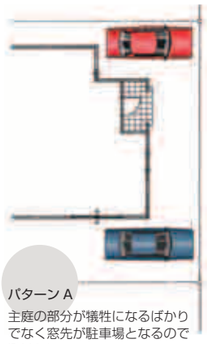
- ●東側のスペースに駐車場と門まわり、アプローチを提案して欲しい。
- ●所有している車は 1 台だが、来客用も含めて 2 台分の駐車場が欲しい。
- ●玄関ポーチは最上段のみ決まっているので、もう 1 段はアプローチと合わせて計画して欲しい。
- ●スタイルはオープンスタイルとし、植栽スペースを多めに確保して欲しい。
- ●門袖又は門柱を設置して、ポスト、表札、インターホンを付けて欲しい。
- ●玄関脇にあるリビングの縦長窓と道路の間に落葉樹を植えて欲しい。
- ●駐車場（又は道路）から南側の主庭への通路を確保して欲しい。

「私ならこう考える! ゾーニング手順と計画時のポイント」

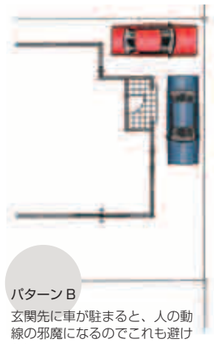
今回も私がプランニングする際に、どのようなことを考えているのかその一部をご紹介してみましょう。
プランニングの参考にしてみてください。

1. 駐車パターンの検討

まずは駐車パターンについて考えてみましょう。北側のスペースはちょうどよいスペースがあるので、
1 台はここに駐めるとしてもう 1 台をどこに駐めるかを考えてみます。

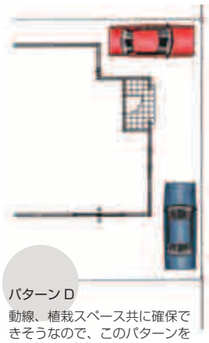


パターン A
主庭の部分が犠牲になるばかりでなく窓先が駐車場となるので避けたい。



パターン B
玄関先に車が駐まると、人の動線の邪魔になるのでこれも避けたい。

パターン C
玄関への動線は確保できたが、施主の要望である玄関脇の窓先に落葉樹を植えることができない。

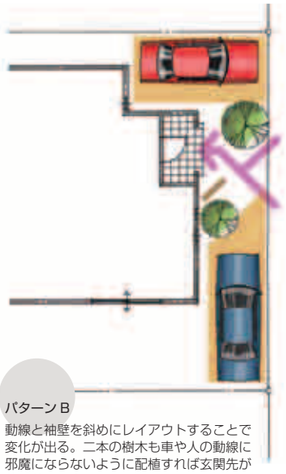


パターン D
動線、植栽スペース共に確保できそうなので、このパターンをベースにアプローチ動線を考える。

2. アプローチ動線の検討

アプローチの動線を考える場合、門袖壁や角柱、シンボルツリー、
灌木類の植え込みスペースも含めて検討しなくてはなりません。

パターン A
シンプルな動線だが変化がなく単調になりがちなので、床の仕上げでひと工夫すると面白い。

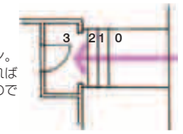


パターン B
動線と袖壁を斜めにレイアウトすることで変化が出る。二本の樹木も車や人の動線に邪魔にならないように配植すれば玄関先が落ち着いた空間となる。

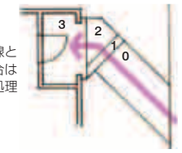
3. ステップの検討

道路から G.L. まで 1 段 ,G.L. から玄関のポーチ天端まで 2 段のステップが必要となるので、その処理を検討しましょう。

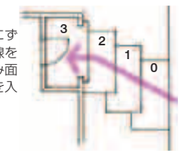
パターン A
一番シンプルなパターン。シンプルモダン系であればありだが、単調になるので注意したい。



パターン B
平行駐車となる車の動線と人の動線が交差する場合はポーチ際でステップを処理すると邪魔にならない。



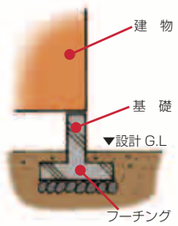
パターン C
広めのステップを平行にずらしながら、斜めの動線を確保するパターン。踏み面と蹴上げの境に草目地を入れると効果的。



ワンポイントレッスン

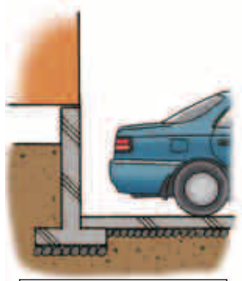
深基礎とは

一般的に建物の基礎は右図のように逆 T 型や L 型の形状をしていて、建物の荷重を地中に分散させて沈下させないようになっており、通常は地中に30cm 程度埋まっています。
狭小地や北入りの宅地では、基礎のすぐ際を駐車場とすることも少なくありませんが、この時道路と宅盤の高さ（設計 G.L.）の高低差が大きいと掘削により基礎の根入れ部分（フーチング）が剥き出しになり最悪の場合建物本体が傾くことにもなります。
この場合、事前にエクステリア計画が出来ていれば今回の課題のように該当する部分のみ基礎を深くしておくことができ、問題は回避できるのです。
このようなことからも建物の計画とエクステリアの計画は同時進行で行うことが重要なのです。



標準基礎断面

深基礎でないとフーチングが露出する



深基礎で処理すると納まりもよい

以上のことをふまえて素敵なプランを考えてみてください。